

2021 年 新入試 外部検定

# 2021 年 外部検定利用 【国立大編】

成績提供システム見送り後 改訂予告 ー分析編ー  
利用校数は 2020 年入試と同水準！

旺文社 教育情報センター 2019 年 12 月

旺文社教育情報センターは、成績提供システム見送りの発表を受けて各国立大が出し直した 2021 年入試の外部検定(外検)利用について一覧表にまとめた。本記事ではその傾向を見ていく。

※本記事では「システム見送り後の予告＝新予告」「同 前の予告＝旧予告」と表記。

※本記事のもととなる各国立大の新予告一覧は、本サイト [12 月 27 日記事](#)を参照。

※各大学の新予告は変更の可能性がある。今後、詳細予告や、選抜要項等を参照されたい。

## ●全体まとめ

- ・外検利用校数は今回の 2020 年入試とほぼ同じ。
- ・一般選抜での利用は少なく、特に出願資格はまれ。学校推薦型、総合型での利用が中心。
- ・利用できる外検は英検が最多。
- ・システム見送りで、認定外だった英検「従来型」、TOEIC も多くの大学で利用。
- ・「高 3 で 2 回まで」ルールがなくなったことで、取得時期は「2 年以内」などに拡大。
- ・CEFR での成績指定は非常に少数派。ほとんどがスコアや級での表示。

## ●予告改訂の経緯

- 【～10 月末】各大学が 2021 年入試の予告を発表。外検利用は成績提供システム構想下のもの。(← 本記事では「旧予告」とする)
- 【11 月 1 日】萩生田文部科学大臣が成績提供システムの見送りを発表。大学はシステムなしでの予告を出し直すことに。
- 【11 月 11 日】各国立大は改訂予告を 11 月 29 日に出すことを国大協が発表。
- 【～11 月 29 日】各国立大が改訂予告を発表。(← 本記事では「新予告」とする)

成績提供システムは見送りになったが、各大学での外検利用が見送りになったわけではない。大学は受験生から外検の成績を独自回収※すれば外検入試を実施できる。注目は新予告でそうした大学がどの程度出てくるか、という点だった。

※「成績提供システム」と「独自回収」については本サイト [11月18日記事](#)を参照。近年では、英検協会のように、大学に対して独自に成績を提供するシステムを構築している検定団体もある。

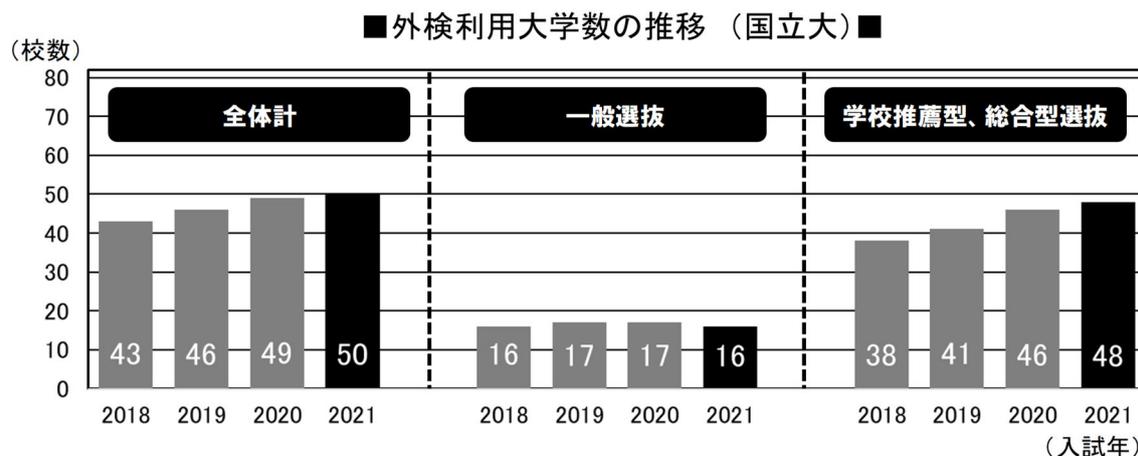
### ●新予告の概要(外検利用校数)

新予告の結果はグラフのとおり。2021年入試では全国立82大学中、50大学が外検利用を予告している。

それではこの50大学という数をどう見るか。

国立大の新予告が出そろった11月末。新聞やニュースでは「国立大の大半が外検利用を見送り」といった報道が一斉に流れた。

しかしこれはシステム利用が前提の旧予告と比較したもの(旧予告では国立78大学が外検利用を予定)。これと比べれば大幅減という見方になろう。ところが一方、ここ数年の外検利用校数の推移で見ると、まったく減っておらず、今回の2020年入試と同水準であることがわかる。



利用校数はほとんど変わらないが、具体的な利用校もほとんど同じ。つまり現在、独自回収で外検利用をしている大学がほぼそのまま継続する。

### ●外検利用する入試方式

新予告では、国立大での外検利用は学校推薦型、総合型選抜が中心で(48大学)出願資格が多い。一般選抜は少数派で(16大学)加点や得点換算が中心。一般選抜での出願資格は東京海洋大のみだ。

「一般選抜で出願資格」は旧予告では多かった。これは2017年11月に国大協が発表した「一般選抜の全受験生に課す」という基本方針にのっとったものだ※。しかし成績提供システム見送りとあわせて、新予告では多くの大学がこの利用方法を取りやめた。

※国大協は基本方針の公表に際して、文科省に対して外検の受験機会の公平性の確保と、経済的負担の軽減を要求している。しかしこの解決はなされず、多くの国立大が「一般選抜で出願資格」としたまま入試改革が進行。外検利用に対する社会的な批判を招く1つの要因となった。

なお唯一「一般選抜で出願資格」としている東京海洋大は、この方式を2016年入試から実施している。国大協の基本方針よりも前に、独自のアドミッションポリシーに基づいて導入したものだ。

## ●利用できる外検

現状の予告では、各外検の採用率を算出することはできない(採用率=各外検が利用できる大学の割合)。新予告の内容が大学によって大学全体、学部単位、学科単位などバラバラで、統一した単位での集計ができないためだ。

とはいえ、ある程度の傾向は見たいところ。そこで目安にすぎないが、[新予告一覧](#)での掲載行数で見てみよう。

<参考>各大学で利用できる外検 ※集計行数ベース(外検利用の全117行中)

・英検	=	110行(94.0%)
・TOEFL iBT	=	106行(90.6%)
・TOEIC	=	97行(82.9%)
・IELTS	=	93行(79.5%)
・GTEC	=	93行(79.5%)
・TEAP	=	72行(61.5%)
・ケンブリッジ	=	60行(51.3%)
・TEAP CBT	=	57行(48.7%)

これで見ると、利用できる外検は英検が最も多い。英検は「従来型」「S-CBT」「S-Interview」「CBT」の4方式あるが、方式を限定している大学はほとんどなく、どの方式でも可となる模様だ(静岡大の学校推薦型のみ現段階では「従来型」と「S-CBT」限定)。

特に従来型は成績提供システムでは利用できない「認定外」の試験だったが、システム見送りにより各大学で一斉に利用可となった。TOEICも同様で、L&Rだけで利用できる大学も多い。GTECは「CBTのみ可」とする大学が見受けられるので注意されたい(金沢大、大阪大、広島大、鹿児島大など)。

システム見送りによって「認定試験」という縛りがなくなっただけではなく、「高3で2回まで」ルールもなくなった。多くの大学で「高2以降」あるいは「高校入学以降」の成績を可としている。

これらの結果、例えば「高2でとった英検従来型」などが使える大学も多い。現在の高校2年生の中には思いがけず、すでに志望校の外検取得をクリアしている生徒もいるだろう。

## ●利用できる外検レベル

[新予告一覧](#)では、各大学で利用できる「最易スコア」を掲載した。この大学で外検利用をする場合は、最低でこのレベルが必要、というように見てほしい。

例 1; 利用方法が「出願資格」と「加点」の場合 … 「出願資格」で求められるスコアを記載。

例 2; 利用方法が「加点」で、5 点、10 点、15 点加点がある場合 … 5 点加点で求められるスコアを記載。

国立大だけでは数が少なく、傾向も見えづらい。それでも全体的には英検でいうと準 2 級以上は必要だ。2 級であれば利用できる大学もかなり広がる。「出願資格」や「判定優遇」では、スコアは問わないという大学も見られる(成績証明書の提出のみ)。

「得点換算」や「加点」では一部で準 1 級という大学もある。最易レベルで準 1 級と言われるとハードルが高いように感じるが、この場合はいわゆる「みなし満点」しか設定されていないケースが多く、実際に利用する受験生は少ないだろう。

ところで英検は、級ではなくスコア(CSE スコア)で成績指定する大学が増えた。スコアでレベルのイメージがわからない場合は、右下の表を参照されたい。

### ●CEFR はどうなった？

旧予告では CEFR で成績指定をする大学がほとんどだったが、新予告ではスコアや級が圧倒的多数となった。CEFR の大学も一部見られる。

これは、成績提供システムが見送りになり、あわせて認定試験の概念もなくなったけれども、それと同時(2018 年 3 月)に文科省が発表した CEFR 対照表がイキなのか、ナシなのか、はっきりしていないためだと思われる。

ただしスコア表示が急増とはいえ、結局 CEFR 対照表を基にしているケースがほとんどだ。例えば英検では 1700、1950、2300 というスコアを求めてくる大学が目立つ。級の合格ラインでもないこのスコアが何かというと、右表で見れば要は A2、B1、B2 ラインであることがわかる。

■英検級とCSEスコア、CEFR

CEFR	英検			
	(英検CSE)	各級のテストで CEFRの判定が可能な範囲		
C1	3299   2600	合格 2630→	3299 ↑ 1級 ↓ 2304	
B2	2599   2300			2599 ↑ 準1級 ←2304 合格
B1	2299   1950	合格 1980→	2299 ↑ 2級 ↓ 1728	1980 ↓ 準1級
A2	1949   1700			1949 ↑ 準2級 合格 ←1728
A1	1699   1400	合格 1456→	1699 3級 ↓ 1400	1400 ↓ 準2級

※CEFRは文科省2018年3月発表資料より作成。

### ●新予告の留意事項

新予告は、高校生が理解するのは相当難しいだろう。それは新予告で「外検利用を取りやめた入試」しかアナウンスしていない大学が多いためだ。つまり利用する入試には触れていない。

国大協が各国立大に対し、11 月中に新予告を出すように要請したのは、ほかならぬ「受験生の皆さんが不安を解消し、勉学に集中できるよう」にするためだったはず(11 月 11 日国大協メッセージ)。この目的を実現できていない大学は非常に多い。

当センターの作成の[新予告一覧](#)は、一見、大学発表の内容と異なっているようにすら見えてしまうが、可能な限り大学へ確認を取りながら作成している。大学の予告自体も今後変更の可能性があるので、ぜひとも参照されたい。